

2021 年度企画展関連イベント

陶芸家・梅田純一 & 浄瑠璃人形遣い・^{かんろく}勘緑

文楽人形コラボレーション

いのち あい へいわ
生命・愛・平和



「この地球に生まれて」より（三人遣い）



日時：2021年12月18日(土) 13時30分～14時30分（13時開場）
場所：ドナルド・キーン・センター柏崎 大型映像ホール
定員：30名（要予約）
参加費：無料（ただし入館料が必要です。）
お問合せ：電話・FAX 0257-28-5755（ドナルド・キーン・センター柏崎）

ドナルド・キーン・センター柏崎
DONALD KEENE CENTER KASHIWAZAKI

= 演目 =

ほし 音楽人形演劇「この地球に生まれて」

Scene 1 黒い雨

Scene 2 アメージング・グレイス（「この地球に生まれて」version）

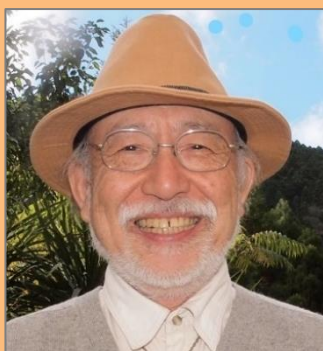
文楽人形：^{かんろく}勘緑 & ^{もくぐうしゃ}木偶舎

※音源：^{こじゃみさこ}古謝美佐子（唄） 佐原一哉（編曲・演奏）



2011年イベントの様子(古謝さんは今回参加されません)

= 出演者 =



梅田純一（陶芸家）

徳島県^{ししくい かいようちょう}穴喰（海陽町）在住



^{かんろく}勘緑（浄瑠璃人形遣い）

^{みよし}徳島県三好市出身

陶芸家・梅田純一の代表作は壁面組絵皿。2012年、「^{よざくらへきめんくみえざら}夜桜壁面組絵皿」を制作、終の棲家と定めた徳島で展示する。2013年には、「^{せんばつるひしょうへきめんくみえざら}千羽鶴飛翔壁面組絵皿」を制作し、沖縄県平和祈念資料館で展示。2014年には、「^{ちようひしょうへきめんくみえざら}蝶飛翔壁面組絵皿」を制作、広島市の被爆建造物、旧日本銀行（広島市指定文化財）で展示した。3作品を貫くコンセプトは、^{いのち}生命・愛・平和。究極のコンセプトだ。

徳島・穴喰で陶芸に生きる梅田純一は、徳島・三好を故郷とする文楽人形遣いの^{かんろく}勘緑と出会う。二人はジャンルこそ違え、同じ想いを生きる。

文楽座で30年、人形を操ってきた勘緑。桐竹勘十郎に魅せられて弟子入りし、勘十郎が亡くなるまで8年間師事した。その後、女性も参加出来る人形遣い集団、木偶舎を設立、人形浄瑠璃の可能性を追求する。2011年3月、東日本大震災後の被災地支援を機に文楽座を辞す。文化の伝承に留まらず、人形浄瑠璃の可能性を広げたいと思ったからだ。ジャズ、現代サーカス、琉球音楽。様々な芸術とのコラボレーションに挑む。次々と新作の脚本を書いては上演してきた。そして、一本の音楽人形演劇が生まれた。

音楽人形演劇 「この地球に生まれて」 勘緑+木偶舎：Plays 古謝美佐子：「黒い雨 ~Amazing Grace」

「背中に既に死んでいる小さな女の子を背負い直立不動で立っている少年」の写真（長崎の原爆投下後にアメリカ兵が撮影）と古謝美佐子の唄「黒い雨」に啓発されて勘緑が作った音楽人形演劇だ。生命の再生をテーマにした人形浄瑠璃であり、沖縄戦や原爆で生命を落とした人々への鎮魂歌だ。

元々は古謝美佐子と勘緑がコンサートで「反戦」をテーマにコラボしている演目だった。数年前に勘緑がフランスのJAPANフェスティバルでこの作品を「この地球に生まれて」というタイトルで披露。その際に、音楽プロデューサー佐原一哉がこの2曲をメドレーとして繋げ、アレンジを施した。

「言葉はなく、唄と人形表現でメッセージを届けたい」（勘緑）

「文楽人形」に^{いのち}命が芽生え、^{いのち}生命が吹き込まれた「蝶」と「鶴」が大空へと飛翔する。